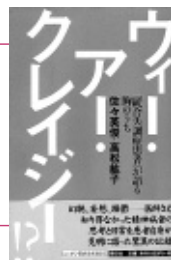


他人から見れば みんなクレイジー??

『ウィー・アー・クレイジー!?
「統合失調症患者」が語る胸のうち』
ニッポン聞き書き選書 2

佐々英俊／高松紘子
定価 1680 円(本体 1600 円+税 5%)
寿郎社 ☎011-708-8565



坂田三允

群馬県立精神医療センター・看護部長

本書は、「統合失調症という聞き慣れない持病と精神障害を抱え 20 年。とうとう 40 の大台に到達しました。おじさんと呼ばれることに抵抗を感じつつ、腹のたるみが気になり始めるお年頃。禿げないことが唯一救いのジェントルマン」である佐々氏が、「実在の人物や団体を特定できないように心がけながら、(中略)僕の人生で起こった出来事、味わった精神状態」を聞き手である高松氏に語った物語である。

高松氏によれば、「聞き手、または友人として、(中略)1 年半向き合い」、「統合失調症などの精神病者に無理やり、または、興味本位で自殺や病的体験を聞いてはいけない」といわれながら、「本書では言い渡すことなくスムーズに語ったように書いていますが、自殺について話しきるまで約 1 年、正邦についても約半年、キクチについては 1 年近く時間をかけ、隔離室に収容された体験にも半年以上費やし、段階的に話してくれた内容」をまとめたものである。

話し手である佐々氏およびその仲間のさまざまな姿が生き生きと綴られている本書は、どこをとっても何かを伝えてくれる。本書の題名『ウィー・アー・クレイジー!?』にまつわるエピソードを引用しよう。退院後病棟を訪れたときの話だ。

「相変わらず、柴田は間抜けなことをしていた。しゃべれないくせに英語の口ぶりを真似て、しゃべっているふりをする。俺は呆れて見つめた。そこに偶然正

邦がつかつかと近づいてきた。絶対に何か面白いことを言うぞ！俺は確信した。“俺だって英語しゃべれますよ”そう言った正邦にみんなが注目する。“ウィー・アー・クレイジー！”。俺と柴田はどっと笑った。正邦はそういうジャストジョークが上手い」。しかし「2 年後、ふと外来の看護婦さんに、“正邦さん最近いませんねー”と尋ねた。“正邦さんなら藻岩山で首をつって亡くなったのよ”小さい声で看護婦さんが教えてくれた。(中略)俺は通夜どころか葬式、一周忌にも出れず、今でも正邦がどこに眠っているのか分からない」のである。

そして「働く人、働かない人、自殺する人、しない人。虐待を受け育つ患者。過保護に育てられる患者。平凡に育った末に発病する患者。(中略)1 人ひとり背負う人生は全部違うのに、みんな精神病患者という同じ視点で片付けられる。“ウィー・アー・クレイジー！”正邦の言葉は正しい」という一文で物語は締めくくられる。

高松氏の「私にはいくら佐々君の話を聞いても本を読んでも、統合失調症という病気の本質やそれを抱えて生きるとはどういうことなのか分かりません」という言葉もまた正しいと私は思う。でもきっと、わかったふりをせず、わかろうとしかかわることが相手との間に細い糸を紡ぎだしていくことになるのだと信じている。



さかたまよし◎このコーナーは、今回からほんの少しリニューアルいたしました。編集部が精神看護に関係のありそうな書籍を選び、それを読んで書くということになりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

●群馬県立精神医療センター
☎379-2221 群馬県佐波郡東村大字国定 2374

(坂田三允のおすすめ本)
『M8』『ダヴィンチ・コード』『絶望禁止』『安心のファシズム』